

溝上 慎一の教育論(動画チャンネル) No162

日本青年心理学会ワークショップ(2023年3月26日開催)

高校生の今を知ろう (ダイジェスト版)

溝上 慎一 Shinichi Mizokami, Ph.D.

学校法人桐蔭学園 理事長
桐蔭横浜大学 教授

<http://smizok.net/>
E-mail mizokami@toin.ac.jp

学校法人河合塾 教育研究開発本部 研究顧問

【プロフィール】1970年生まれ。大阪府立茨木高校卒業。神戸大学教育学部卒業、1996年京都大学助手、講師、准教授、2014年教授を経て2018年に桐蔭学園へ。桐蔭横浜大学学長(2020-2021年)。京都大学博士(教育学)。

*詳しくはスライド最後をご覧ください

※本動画チャンネルは溝上が個人的に作成・提供するものです。
公益財団法人電通育英会の助成を受けて行われています

日本青年心理学会ワークショップ 高校生の今を知ろう

企画：日本青年心理学会研究委員会 共催：桐蔭横浜大学

日時 **3/26**
14:00-16:30

会場 **桐蔭横浜大学**
神奈川県横浜市青葉区鉄町 1614

対象者：青年心理学会員に限らず、どなたでも参加可能
参加費：無料

高校生を取り巻く状況は大きな転換期を迎えています。例えば、成人年齢が18歳に引き下げられ、高校3年生の一部は高校在学中に「成人」になることとなります。また、大学入試においては総合型選抜・学校推薦型選抜といった一般選抜以外での入試方式での大学進学が中心になり、探究的な学習や課外活動での成果を自ら表現することが求められ、「経験重視の評価」として世間では議論がされています。

新型コロナウイルスの流行が始まり3年経過し、世界のありかたが大きく変化してきました。そのなかで、日常生活においては、直接物事に触れる機会、場所を訪れ、人と接する機会が少なくなり、これまでの世代とは全く異なる経験をもつ高校生が大学生になってきています。

そこで本ワークショップでは、青年期を対象として研究する者として、「高校生のいま」を3名の先生の話提供とともに、ワークショップ形式で参加者の先生方と考えてみたいと思います。私たちが経験してきた高校生活と、どこが変わったのか、現代の高校生がなにに悩んでいるのか、そして研究者として私たちは高校生をどのように見つめていけばよいのか、その一助になることを期待しています。

タイムテーブル

- 14:00～14:05 開会挨拶および企画趣旨説明
- 14:05～15:20 話提供 (各 25分)
- 15:20～15:30 指定討論
- 15:30～16:25 グループ討議および発表
- 16:25～16:30 閉会挨拶

登壇者

- 話提供者：溝上慎一 (桐蔭学園)
- 話提供者：日野田昌士 (聖学院中学校・高等学校)
- 話提供者：神崎真実 (立命館大学)
- 指定討論者：山口昌澄 (高田短期大学)
- 司会者：溝口侑 (桐蔭横浜大学)



溝上慎一（桐蔭学園理事長・桐蔭横浜大学教授）
「学校から仕事・社会へのトランジション、指導要領改訂
から見た高校生に求められる教育の現状
—時間と空間の拡張へと繋げて—」



日野田昌士（聖学院中学校・高等学校 総務統括部長（教頭）
「今のリアルな高校生たちの生活の有様」



神崎真実（立命館大学 立命館グローバル・イノベーション
研究機構 助教）
「高校生の今を知ろう
—通信制高校生の「居場所づくり会議」をもとに—」



日野田昌士（ひのだ まさと）
聖学院中学校・高等学校
総務統括部長（教頭）

2002年同志社大学卒業後、聖学院中学校高等学校で21年間勤務。生徒会顧問として体育祭、文化祭の生徒の運営のサポート、進路指導部長、社会科主任などを務め、2019年より総務統括部長（教頭）。現在、5年目に入る。「教育が変わることにより、社会が変わる」がモットー。



神崎真実（かんざきまみ）
立命館大学 立命館グローバル・イノベーション研究機構 助教

2017年、立命館大学にて博士（文学）取得。文化心理学・社会文化的アプローチに基づき、不登校経験とその後の生活を研究。

・神崎真実（2021）不登校経験者受け入れ高校のエスノグラフィー 生徒全体を支える場のデザイン ナカニシヤ出版

・サトウタツヤ・春日秀朗・神崎真実編（2019）質的研究法マッピングー特徴をつかみ、活用するために 新曜社

それではご覧ください